

能勢伊勢雄 大成 第二期全十講

第二期のテーマ「アートと近代の再検証」

マルチオピニオン・能勢伊勢雄の迷宮に踏み込んで二年目がスタートする。映像・映画のアンバシヤルドな作品と資料から鬼才の横顔を垣間見た我々は、さらにそのレジエンドともいべき営為の数々を遡及する。題して「アートと近代の再検証」。現代アートが日本の近代と併走し、あるいは相克してきた曲面を、氏自身の多様なクリエイションの軌跡と言語と美学によって明らかにする。



アートとファームの学校

【第二期◎講座内容】

第8回 2018年5月26日(土)

■Live House ペパーランドの誕生と展開

音楽 & アンダーグラウンド・シネマ、実験演劇、ポエトリー・リーディング、シチュアシオニズムから松岡正剛と工作舎、「遊会」の継承・ロジェ・カイヨフと遊学、『Rock Magazine』との関わり、山海塾、美術学校…など。

第9回 6月23日(土)

■「備前アートイベント」が挑んだ先駆性

「備前アートイベント」主宰・林三佐のアシスタント・ディレクターを長年務めた体験を通して、アートイベントの黎明期に何が行われていたのか?? また、「牛窓アートフェスから「自由工場」への系譜」も言及、「自由工場」に参加した大森誠一が体験談を語る。

第10回 8月26日(日)

■『スペクタクル能勢伊勢雄 1968-2004』展の訴求力

一キュレーター・那須孝幸氏を迎えて一初の岡山・倉敷市連携文化事業として開催された展覧会とは同時に岡山市デジタル・ミュージアムとの連携事業でもあった。キュレーター・那須孝幸氏を迎えて展覧会の内実を語る。

第11回 9月29日(土)

■『スペクタクル能勢伊勢雄 1968-2004』展と「デジタル・ムネモシユネ」構想

岡山シティ・ミュージアムの前身であった岡山市デジタル・ミュージアムの「デジタル・ムネモシユネ」構想とは何か、

第12回 10月20日(土)

■日本写真史に刻印された山崎治雄の視座

能勢の写真の師匠・山崎治雄氏の「写真記録」とは何か?? 石津良介氏と共に組織された「中国写真家集団」と特徴的な共同制作の理念について。

第13回 11月24日(土)

■山崎治雄写真から読み取れる「近代」への疑問

岡山の復興のなかで山崎治雄が「破壊の別名」とは何か。

第14回 12月22日(土)

■犬島の産業遺産アートが提示している「近代の超克」の問題

山崎治雄最後の共同制作で取り組んだ「犬島」における精錬所美術館での柳幸典展示作品が響かせる三島由紀夫と保田與重郎の問題を語る。

第15回 2019年1月26日(土)

■能勢伊勢雄作品『共同性の地平を求めて 68/75 荻原勝+キュメント』上映

映画の内容である「人間の最後の問」としての「共同性」をめぐり映画鑑賞と上映後、鑑賞者との会話。

第16回 2月23日(土)

■ゲーテ「色彩論」が放つ深層

映画『共同性の地平を求めて』の出演者 荻原勝氏がキュメントを通じて能勢がゲーテと出逢う。ゲーテに見たものは「近代」認識への疑問であった。

第17回 3月30日(土)

■ゲーテ「形態学」で拓いた地平

「人間」ゲーテの中に見る前近代的思考法をゲーテ・シュタイナーの流れから捉える。

【第一期◎講座内容】

第1回 シチュアシオニストとして生きたこと/前編 ~能勢伊勢雄の実践を紐解きながら~ (2017年8月19日)

約6時間と及ぶインタビューの前編は、能勢氏の映画との出会いから破竹の「スペクタクル展」へ。

第2回 シチュアシオニストとして生きたこと/後編 ~能勢伊勢雄の実践を紐解きながら~ (10月21日)

後編ではグラフィティのムーブメントからゲーテやシュタイナーの学究を経て原初日本への遡及を展開。

第3回 岡山での実験映画の台頭 ~能勢伊勢雄と大森誠一の映像作品の上映と文化状況を語る~ (11月4日)

能勢氏の数々のフィルムグラフィティから封印されてきた秘蔵映像作品を上映。他作品も後日上映予定。

第4回 実験映画史「映画言語の変革」~文化状況を打破するための、もう一つの映画言語への到達点~ (12月23日)

映画に秘められた魔法の磁気によって人間まじりの新しい体験と豊かな感性に目覚めていったのか。

第5回 実験映画鑑賞・海外編① (2018年1月21日)

スタン・ブランクージ、ケネス・アンガー、ジャン・エプシュタインら7作家の先駆的作品を鑑賞。

第6回 実験映画鑑賞・海外編② (2月10日)

ジャック・スマス、ポール・シャロット、アンソニー・バルチ+プライオン・ガイシンら8作品。

第7回 実験映画鑑賞・国内編 (3月31日)

CTG、伊藤高志、小山英治、松本俊夫、ユーフラテス…などの10作品上映。

時間: 毎回 18:00 ~ (3時間程度) 会場: 丸の内テラス(岡山市北区丸の内) 参加料: 1回2,000円
 応募方法: 氏名、住所、電話、メールを明記のうえ下記まで郵送、FAX、メールのいずれかにてお申し込みください。
 ※当日参加も承ります。



岡山を拠点に表現ジャンルをクロスオーバーする活動を展開。写真家、映像作家、音楽・美術評論家、美術展企画を手がける。1974年に老舗ライブハウス PEPPERLAND を設立しライブ文化を定着させた。松岡正剛が編集した「遊」に参加し、1978年から「岡山遊会」を開催。また、阿木謙福集の『ロック・マガジン』では編集やライターを務めた。2004年、写真家、映像作家、美術展企画など多岐にわたる活動の全貌を紹介する展覧会『スペクタクル能勢伊勢雄 1968-2004』が岡山・倉敷市連携文化事業として開催される。2008年、銀塩写真家集団「Phenomena」を設立。銀塩写真の指針にある。2010年、「美術学校岡山校」を開校。アート・ビトーブ那須で毎年開催される「山のシユール」にてゲーテ色彩論・形態学、神道形態学などの講義を展開する。2015年から「京都国際映画祭」にて作品上映+レクチャーを継続中。
 【主要刊行物】『スペクタクル能勢伊勢雄 1968-2004』和光出版社刊。写真集『能勢伊勢雄: 形態学 ISEO NOSE : MORPHOLOGY』赤々舎刊。『新・音楽の解読』DU BOOKS 刊。CD『高橋義 HARMONIA』Rapid-Eye Music Records。CD+BOOK 第63回平成20年度文化庁芸術祭参加選定作品 JINMO 『Ascension Spectacle』Rapid-Eye Music Records…他多数。写真家集団 Phenomena 写真集『フマニクシロ・ランドスケープ』監修(水声社刊)。

【主催】特定非営利活動法人アートファーム

【問合せ/申込み】アートファームの学校事務局

岡山市北区丸の内 1-1-5-402

TEL=086-233-5175 FAX=086-294-3764

E-mail=info@artfarm.or.jp

URL=http://www.artfarm.or.jp

オリエン特美術館	○ホテルエクセル
←JR岡山駅	●丸の内テラス (東1ビル4F)
東山線「城下」電停	○コンフォートホテル
シンフォニーホール	